

出題分析			
試験時間 60 分	配点 80 点 (Reading 込)	大問数 3 題	
分量 (昨年比較) [減少 <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/>		難易度変化 (昨年比較) [易化 <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 難化 <input type="checkbox"/>	
<p>【概評】</p> <p>大問構成は例年通り、自由英作文問題 2 題、日本語要約問題 1 題の計 3 題である。解答欄は、昨年に比べ各題 1 行ずつ増えた。試験時間は 60 分あるものの、1 問あたりの解答時間は限られており、決して余裕はない。試験時間内に完答するためには、素早く論点をおさえ、それを解答欄におさまる分量に調整してまとめる力が求められる。語数指定はないが、解答スペース内で簡潔かつ論理的に記述することを心がけたい。</p>			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	自由英作文問題 (貧乏な 20 歳か裕福な 60 歳か)	英語の設問文を読み、その内容について自分の見解とその理由を英語で述べる問題。解答欄は幅 15 センチ×11 行。テーマは「貧乏な 20 歳と裕福な 60 歳のどちらがよいか」という、受験生にとっても想像しやすく、自身の価値観を反映させやすい取り組みやすいものであった。	標準
II	自由英作文問題 (グラフの説明:近視の推移)	2000 年と 2050 年 (予測) の年齢層別近視者数および有病率を示したグラフが題材。解答欄は幅 15 センチ×13 行。昨年は 2 つのグラフから傾向を読み取る形式だったが、今年は 1 つのグラフから「最も重要な事実または傾向を 2 つ挙げる」形式であった。グラフ自体は 1 つに集約されたものの、複数の要素を多角的に分析し、その根拠を論理的に説明する力が問われる点は変わらない。	標準
III	日本語要約問題 (能力主義の弊害)	能力主義批判についての 400 語程度の英文を読み、その内容を日本語で要約する問題。解答欄は 15 センチ×9 行。文章全体の論理構成はつかみやすく比較的まとめやすいが、制限時間内に解答欄におさまるように必要な情報を捨選択し、字数調整を行うのは決して易しくはない。	標準

合格のための学習法

早稲田大学国際教養学部は、英語の読み書きのスキルだけでなく日本語の記述力や表現力も求められている。日本語要約問題は情報を取捨選択して簡潔に答える必要がある。過去問演習を行い、添削してもらって適切な日本語でまとめられているか必ず確認しておこう。日頃から英字新聞などを読み、社会的なテーマに関しては自分なりの考えを持つておくことが大切である。